

# 運動部活動地域移行・地域連携に関するアンケート報告書

調査対象：市スポーツ協会加盟競技団体・市内スポーツ少年団・モデル事業の参加生徒・保護者・指導者

令和6年5月

山形市部活動地域移行連携室



## 目次

### I 調査概要

1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査方法	1
4 調査期間	1
5 回答状況	1
6 調査結果の見方	1

### II 市スポーツ協会加盟競技団体アンケートの結果

(1) 休日部活動を行わなくなった場合、受け入れ可能か（問1）	2
(2) 受け入れ可能な競技について（問2）	2
(3) 受け入れ可能な人数について（問3）	2
(4) 受け入れ可能な時期について（問4）	2
(5) 休日部活動の想定される会費について（問5）	3
(6) 受け入れる場合の指導者の雇用について（問6）	3
(7) 活動場所について（問7）	3
(8) 休日の部活動を受け入れることが難しい理由について（問8）	3
(9) 中学生を指導する場合、心配と思われること（問9）	3
(10) 指導する場合の希望する市の支援策について（問10）	4
(11) モデル事業へ参加する意向について（問11）	4
(12) モデル事業の実施頻度について（問12）	4
(13) 競技団体としての考え方や懸念されることは（問13）	4

### III 市内スポーツ少年団アンケートの結果

(1) 指導者の人数について（問1）	6
(2) 活動場所について（問2）	6
(3) 活動費について（問3）	6
(4) 中学生の受け入れ可能性について（問4）	6
(5) 受け入れ可能な競技について（問5）	6
(6) 受け入れ可能な人数について（問6）	7
(7) 受け入れ可能な時期について（問7）	7
(8) 休日部活動の想定される会費について（問8）	7
(9) 休日の部活動を受け入れることが難しい理由について（問9）	7
(10) 中学生を指導する場合、心配と思われること（問10）	8
(11) 指導する場合の希望する市の支援策について（問11）	8
(12) モデル事業へ参加する意向について（問12）	8
(13) モデル事業の実施頻度について（問13）	8
(14) 競技団体としての考え方や懸念されることは（問14）	9

### IV モデル事業参加者アンケートの結果

#### (1) 生徒

(1) 学年について（問1）	10
(2) 性別について（問2）	10
(3) モデル事業の参加回数について（問3）	10
(4) モデル事業に参加してよかったことについて（問4）	10
(5) モデル事業に参加して感じた課題について（問5）	10

(6) 今後のモデル事業への参加について（問6）	10
（2）保護者	
(1) モデル事業に参加してよかったことについて（問1）	11
(2) モデル事業に参加して感じた課題について（問2）	11
(3) 休日の部活動が地域クラブに移行・連携することについて（問3）	11
(4) 今後のモデル事業への参加について（問4）	11
（3）指導者	
(1) モデル事業に参加してよかったことについて（問1）	12
(2) モデル事業に参加して感じた課題について（問2）	12
(3) 今後のモデル事業への参加について（問3）	12

## V 概要と考察

1 回答からわかった主なこと	13
2 考察	14

# I 調査概要

## 1 調査目的

本市の運動部活動の地域移行・地域連携に向けた、競技団体・スポーツ少年団及びモデル事業※注1参加者の実態把握と課題等を探るもの。

※注1

モデル事業とは、運動部活動の休日（土、日、祝日）の活動を地域スポーツとして活動を行い、その成果と課題を検証していくものであり、令和5年度は14部活で実施し、189人が参加した。

【種目】

野球・バスケットボール・ソフトボール・卓球・剣道・なぎなた・ラグビー・ボルダリング・スケートボード  
ハンドボール・バレーボール

## 2 調査対象

- (1) 市スポーツ協会加盟競技団体（47団体）
- (2) 市内スポーツ少年団（119団体）
- (3) 令和5年度モデル事業参加者（生徒189人・保護者189人・指導者17人）

## 3 調査方法

上記(1)(2)の団体：紙や電子メールで案内したURLやQRコードからのWeb回答

上記(3)の生徒・保護者・指導者：紙や電子メールで案内したURLやQRコードからのWeb回答

## 4 調査期間

令和6年1月31日（水）～令和6年2月15日（木）

## 5 回答状況

対象	配付数	回答者数	回収率
(1)市スポーツ協会加盟競技団体	47	19	40.4%
(2)市内スポーツ少年団	119	39	32.8%
(3)令和5年度モデル事業参加者			
生徒	189	72	38.1%
保護者	189	32	16.9%
指導者	17	14	82.4%
合計	561	176	31.4%

## 6 調査結果の見方

- (1) 調査結果の「n」は、その設問の回答者数を表しています。
- (2) 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数とし、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを示しています。そのため、その合計値が100%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答比率の合計は100%を超える場合があります。
- (4) 調査結果の「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- (5) 選択肢の語句が長い場合、本文及び調査結果では省略した表現を用いた場合があります。

## Ⅱ 市スポーツ協会加盟競技団体アンケートの結果

(問1) 学校で休日に部活動を行わなくなった場合、貴団体は受け入れ可能ですか。 n = 19

回答項目	回答数	割合(%)
① 積極的に受け入れたい	5	26.3
② 受け入れを検討したい	6	31.6
③ 受け入れは難しい	8	41.1
④ 関心がない	0	0.0

受け入れに前向き又は検討したいとする回答が約半数あるが、難しいと考える団体が4割程度となっている。

※ 問1で①・②と答えた方は問2～問7をお答えください。 n = 11

(問2) どのような競技で受け入れ可能ですか。

回答項目	回答数	割合(%)
<b>【競技種目】</b>		
・バドミントン		
・ソフトボール		
・なぎなた		
・新体操		
・スポーツチャンバラ		
・キックボクシング		
・ボウリング		
・トレーニング等		
・ダンススポーツ		
・ゲートボール		
・競技不明		

※ 各競技団体からの回答のため回答数及び割合を記載していない。

市内中学校の部活動に存在しない競技種目が数多い回答となっている。

(問3) 中学生を指導する場合受け入れ可能人数は、何人になりますか。

回答項目	回答数	割合(%)
① 10名以内	1	9.1
② 10人～20人程度	5	45.5
③ 20人～30人程度	4	36.4
④ 30人以上	1	9.1
⑤ わからない・検討中	0	0.0

多くの競技団体が10人～30人の受け入れが可能と回答している。

(問4) いつ頃からの受け入れが可能ですか。

回答項目	回答数	割合(%)
① 令和6年4月以降	4	36.4
② 令和6年6月以降	1	9.1
③ 令和6年度中	6	54.5
④ 令和7年度以降	0	0.0
⑤ わからない・検討中	0	0.0

全ての団体が令和6年度中の受け入れが可能と回答している。

**(問5) 休日の部活動経費を会費で賄う場合、1人当たりの会費は、どのくらいを想定していますか。**

回答項目	回答数	割合(%)
① 月額1,000円程度	2	18.2
② 月額2,000円程度	2	18.2
③ 月額3,000円程度	2	18.2
④ 月額4,000円程度	2	18.2
⑤ 月額5,000円程度	0	0.0
⑥ 月額5,000円以上	0	0.0
⑦無回答	3	27.2

競技種目によって経費は異なるため、月額の金額にばらつきがある回答となっている。

**(問6) 受け入れるにあたり、新たに指導者を雇用する予定はありますか。**

回答項目	回答数	割合(%)
① 有	3	27.2
② 無	4	36.4
③ 未定	4	36.4

**(問7) 独自の活動場所がありますか。**

回答項目	回答数	割合(%)
① 活動場所がある (活動場所を入力してください) (高校体育館、団体が管理する施設、民間施設、公共施設)	5	45.5
② 活動場所がない	4	36.4
③ 未定	2	18.2

※ 問1で③「受け入れることは難しい」と答えた方にお聞きします。

n = 8

**(問8) 休日の部活動を受け入れることが難しいと答える理由について教えてください。2つまで選択**

回答項目	回答数	割合(%)
① 指導者の調整や確保が難しい	4	50.0
② 指導者の専門性が担保できない	0	0.0
③ 活動場所の確保が難しい	3	37.5
④ 自分たちの活動が忙しい	2	25.0
⑤ 責任の所在	1	12.5
⑥ その他	2	25.0

指導者や活動場所の確保を挙げている団体が多い。

**(問9) 中学生を指導する場合、心配と思われることを2つまで選択してください。**

n = 19

回答項目	回答数	割合(%)
① 責任の所在	6	31.6
② 活動場所の確保	11	57.9
③ ケガなどへの対応	1	5.3
④ 生徒や関係者のトラブル対応	10	52.6
⑤ 指導内容・指導方法	1	5.3

⑥ 苦情等への対応

4 21.1

活動場所の確保とトラブル等への対応が多くを占めている。

(問10) 中学生を指導する場合、市の支援として、あるとよいものを1つ選択してください。

n = 19

回答項目	回答数	割合 (%)
① 会場使用料の減免措置	1	5.3
② 活動場所の優先的な利用	10	52.6
③ 会費等の補助	5	26.3
④ 生徒や関係者のトラブル対応	1	5.3
⑤ その他	2	10.5

活動場所の支援が最も多く、次いで会費等の補助が多くなっている。

(問11) 令和6年度、モデル事業へ参加する意向はありますか。

n = 19

回答項目	回答数	割合 (%)
① 提示した委託条件で参加を検討したい	7	36.8
② 参加を検討する委託条件の提示が不十分	2	10.5
③ 参加は困難である	3	15.8
④ その他 (自由記述:内部調整が必要、参加生徒が不確定)	6	31.6
⑤ 無回答	1	5.3

※委託条件 (令和5年度の場合)

- ・対象: 休日の運動部活動 (原則、土日どちらか1日)
- ・活動時間: 1日当たり3時間を上限
- ・委託料: 1団体21万円 (指導者謝礼 1,600円/時間を含む)
- ・運営上の留意点: 「山形市における運動部活動の方針」の遵守

7団体が参加を検討したいと回答している。

※ 問11で①「提示した委託条件で参加を検討したい」と答えた方にお聞きします。

n = 7

(問12) どのくらいの頻度で実施予定ですか。

回答項目	回答数	割合 (%)
① 月1回程度	0	0.0
② 月2～3回程度	2	28.6
③ 毎週末	5	71.4
④ その他	0	0.0

全ての団体が月に複数回の活動が可能と回答している。

(問13) モデル事業の実施や地域連携の体制づくりに向けて、競技団体としての考え方や懸念されることはどんなことですか。

回答

- ・内部での調整検討が必要であり、これから引き続き具体策等について協議していきたい。
- ・競技を補助的に協力することは可能である。
- ・指導者の確保が困難である。
- ・完全に部活動を切り離すなら、それなりの準備があつて然るべき。また、学校との連携や協力が不可欠である。
- ・既存のクラブ等の活用が体制づくりの方法の一つとなるが、練習会場や指導者の確保が



困難である上に、資金的な見通し等、今後の見通しが不明瞭である。

- ・協会としてではなく、各チーム・クラブでの参加は可能。指導者確保や謝礼などの金銭的バックアップは必須である。

### Ⅲ 市内スポーツ少年団アンケートの結果

**(問1) 指導者の人数はどのような実態ですか。** n = 39

回答項目	回答数	割合 (%)
① 1人	1	2.6
② 2人	4	10.3
③ 3人	10	25.6
④ 4～9人	23	59.0
⑤ 10人以上	1	2.6

3人以上の指導者がいる団体が多くなっている。

**(問2) 主な活動場所はどこですか。(複数回答可)** n = 39

回答項目	回答数	割合 (%)
① 小学校グラウンド	20	51.3
② 小学校体育館	24	61.5
③ 中学校グラウンド	0	0.0
④ 中学校体育館	0	0.0
⑤ 公共スポーツ施設	2	5.1
⑥ 市営スポーツ施設	3	7.7
⑦ その他	4	10.3

小学校グラウンド、体育館と回答した団体が多い状況である。

**(問3) 活動日はどのようになっていますか(複数回答可)。** n = 39

回答項目	回答数	割合 (%)
① 平日	27	69.2
② 土曜日	36	92.3
③ 日曜日	32	82.1

ほとんどの団体が土曜日、日曜日と回答している。平日と回答した団体も約7割ある。

**(問4) 学校で休日に部活動を行わなくなった場合、貴団体は受入可能ですか。** n = 39

回答項目	回答数	割合 (%)
① 積極的に受け入れたい	6	15.4
② 受け入れを検討したい	15	38.5
③ 受け入れは難しい	18	46.2
④ 関心がない	0	0.0

受け入れに前向き又は検討したいとする回答が約半数あるが、難しいと回答した団体も4割強ある状況である。

**※ 問4で①・②と答えた方は問5～問8をお答えください。** n = 21

**(問5) どのような競技で受け入れ可能ですか。**

回答項目	回答数	割合 (%)
<b>【競技種目】</b>		
・バレーボール	5	23.8

・バスケットボール	3	14.3
・野球	3	14.3
・柔道	2	9.5
・軟式野球	2	9.5
・アルペンスキー	1	4.8
・サッカー	1	4.8
・ソフトテニス	1	4.8
・ソフトボール	1	4.8
・剣道	1	4.8
・陸上競技	1	4.8

全体的に中学校の部活動に存在する競技種目となっている。

**(問6) 中学生を指導する場合受け入れ可能人数は何人になりますか。**

回答項目	回答数	割合(%)
① 10人以下	1	4.8
② 10人～20人程度	9	42.9
③ 20人～30人程度	6	28.6
④ わからない・検討中	5	23.8

多くの競技団体が10人～30人の受け入れが可能と回答している。

**(問7) いつ頃からの受け入れが可能ですか。**

回答項目	回答数	割合(%)
① 令和6年4月	9	42.9
② 令和6年度中	1	4.8
③ 令和7年以降	1	4.8
④ 未定	10	47.6

令和6年度中の受け入れを見込んでいる団体が半数近いが、見通しがつかない団体も半数近くある。

**(問8) 休日の部活動経費を会費で賄う場合、1人当たりの会費は、どのくらいを想定していますか。**

回答項目	回答数	割合(%)
① 月額1,000円程度	9	42.9
② 月額2,000円程度	2	9.5
③ 月額3,000円程度	6	28.6
④ 月額4,000円程度	3	14.3
⑤ 月額5,000円程度	1	4.8
⑥ 月額5,000円以上	0	0.0

月額2,000円以下と回答した団体が約半数となっている。

※ 問4で③「受け入れは難しい」と答えた方にお聞きします。

n = 18

**(問9) 休日の部活動を受け入れることが難しいと答える理由について教えてください。(2つまで)**

回答項目	回答数	割合(%)
① 指導者の調整や確保が難しい	9	50.0

② 指導者の専門性が担保できない	1	5.6
③ 活動場所の確保が難しい	6	33.3
④ 自分たちの活動が忙しい	8	44.4
⑤ 責任の所在	6	33.3
⑥ その他	4	22.2

**(問10) 中学生を指導する場合、心配と思われることを2つまで選択してください。 n = 39**

回答項目	回答数	割合 (%)
① 責任の所在	22	56.4
② 活動場所の確保	13	33.3
③ ケガなどへの対応	2	5.1
④ 生徒や関係者のトラブル対応	8	20.5
⑤ 指導内容・指導方法	17	43.6
⑥ 苦情等への対応	7	17.9

「責任の所在」・「指導内容・指導方法」について多くの団体が不安を抱えている。

**(問11) 中学生を指導する場合、あるとよい市の支援を1つ選択してください。 n = 39**

回答項目	回答数	割合 (%)
① 会場使用料の減免措置	3	7.7
② 活動場所の優先的な利用	16	41.0
③ 会費等の補助	9	23.1
④ 生徒や関係者のトラブル対応	3	7.7
⑤ その他	7	17.9
⑥ 無回答	1	2.6

活動場所の確保や財源に係る声が多い。その他については、次の点について記述があった。

- ・活動場所と指導者の確保
- ・強化費用の増額や資金援助
- ・社会体育開放施設利用の弾力化
- ・指導者、大会等の調整事務

**(問12) 令和6年度、モデル事業へ参加する意向はありますか。 n = 39**

回答項目	回答数	割合 (%)
① 提示した委託条件で参加を検討したい	10	25.6
② 参加を検討する委託条件の提示が不十分	2	5.1
③ 参加は困難である	21	53.8
④ その他 (卒団生のみ可能、同地区にクラブが既存)	6	15.4

※委託条件 (令和5年度の場合)

- ・対象：休日の運動部活動 (原則、土日どちらか1日)
- ・活動時間：1日当たり3時間を上限
- ・委託料：1団体21万円 (指導者謝礼 1,600円/時間を含む)
- ・運営上の留意点：「山形市における運動部活動の方針」の遵守

10団体が参加を検討したいと回答しているが、約2倍の21団体が参加は困難と回答している。

**※ 問12で①「提示した委託条件で参加を検討したい」と答えた方にお聞きします。 n = 10**

**(問13) どのくらいの頻度で実施予定ですか。**

回答項目	回答数	割合(%)
① 月1回程度	0	0.0
② 月2～3回程度	3	30.0
③ 毎週末	7	70.0
④ その他	0	0.0

(問14) モデル事業の実施や地域連携の体制づくりに向けて、スポーツ少年団としての考えや懸念されることは、どんなことですか。

回答

- ・事務的な対応ができないため、モデル事業等は受け入れ難い。
- ・同じ学区の中学生のみなら、ある程度送迎の必要がなくなる。
- ・指導スタッフの人件費の補助をお願いしたい。
- ・活動場所と指導者の確保が困難である。また、小学生と中学生を同時に指導することは難しい。

#### IV 令和5年度モデル事業参加者アンケートの結果

(1) 生徒

n = 72

**(問1) 学年を教えてください。**

回答項目	回答数	割合 (%)
① 中学1年	25	34.7
② 中学2年	47	65.3

**(問2) 性別を教えてください。**

回答項目	回答数	割合 (%)
① 男子	41	56.9
② 女子	31	43.1

**(問3) 休日の地域クラブ活動（モデル事業）に何回参加しましたか。**

回答項目	回答数	割合 (%)
① 1回	15	20.8
② 2回	7	9.7
③ 3回	7	9.7
④ 4回	13	18.1
⑤ 5回以上	30	41.7

※モデル事業によって実施回数は異なり、委託期間2～3カ月の間に、1～12回実施。

約4割が5回以上参加している。

**(問4) モデル事業に参加してよかったと思うことは何ですか。（複数回答）**

回答項目	回答数	割合 (%)
① 自宅から近くの施設で活動できたこと	13	18.1
② 専門的な指導を受けることができたこと	46	63.9
③ 平日とは違う仲間と活動できたこと	15	20.8
④ 活動が充実していたこと	32	44.4
⑤ その他	3	4.2

専門的な指導、活動の充実との回答が多くなっている。

**(問5) モデル事業に参加して課題だと感じることは何ですか。（複数回答）**

回答項目	回答数	割合 (%)
① 自宅からの距離や移動手段	22	30.6
② 指導者の指導力	5	6.9
③ 活動時の健康面や安全面	15	20.8
④ 保護者の負担（送迎など）	32	44.4
⑤ 活動内容	9	12.5
⑥ その他	5	6.9

保護者の負担や移動手段を心配する回答が多い。

**(問6) 今後もモデル事業に参加したいですか。**

回答項目	回答数	割合 (%)
------	-----	--------

① そう思う	37	51.4
② ややそう思う	17	23.6
③ どちらでもない	8	11.1
④ あまりそう思わない	7	9.7
⑤ まったく思わない	3	4.1

7割強が今後の参加について積極的な回答となっている。

(2) 保護者

n = 32

(問1) モデル事業に参加してよかったと思うことは何ですか。(複数回答)

回答項目	回答数	割合(%)
① 自宅から近くの施設で活動できたこと	5	15.6
② 専門的な指導を受けることができたこと	22	68.8
③ 平日とは違う仲間と活動できたこと	12	37.5
④ 会費などが安価だった	3	9.4
⑤ 保護者の負担が少なかった	3	9.4
⑥ 活動が充実していた	15	46.9
⑦ その他	2	6.3

保護者の視点でも専門的な指導が最も評価されている。

(問2) モデル事業に参加して課題だと感じることは何ですか。(複数回答)

回答項目	回答数	割合(%)
① 自宅からの距離や移動手段	14	43.8
② 指導者の指導力	3	9.4
③ 活動時の健康面や安全面	2	6.3
④ 費用面の負担	4	12.5
⑤ 保護者の負担(送迎など)	12	37.5
⑥ 活動内容	5	15.6
⑦ その他	6	18.8

保護者の視点でも、自宅からの距離や移動手段などが課題として多く挙げられている。

(問3) 休日の部活動が地域クラブに移行・連携することについてどのように感じていますか。

回答項目	回答数	割合(%)
① とても良い	10	31.3
② 良いと感じる	11	34.4
③ どちらでもない	10	31.3
④ あまり良くないと感じる	0	0.0
⑤ 良くないと感じる	1	3.1

約6割の保護者が肯定的な考えである。

(問4) 今後もモデル事業に参加したいですか。

回答項目	回答数	割合(%)
① そう思う	23	71.9

② ややそう思う	6	18.8
③ どちらでもない	3	9.4
④ あまりそう思わない	0	0.0
⑤ まったく思わない	0	0.0

約9割の保護者が今後の参加について肯定的な考えである。

(3) 指導者

n = 14

(問1) モデル事業に参加してよかったと思うことは何ですか。(複数回答)

回答項目	回答数	割合(%)
① 自宅から近くの施設で活動できたこと	1	7.1
② 専門的な指導を受けることができたこと	9	64.3
③ 平日とは違う仲間と活動できたこと	6	42.9
④ 謝金が支払われたこと	3	21.4
⑤ 保護者の負担が少なかった	0	0.0
⑥ 活動が充実していた	3	21.4
⑦ 先生方の負担が減ったこと	4	28.6
⑧ その他	0	0

指導者の視点でも、専門的な指導が最も評価されている。

(問2) モデル事業に参加して課題だと感じることは何ですか。(複数回答)

回答項目	回答数	割合(%)
① 自宅からの距離や移動手段	4	28.6
② 指導者の指導力	3	21.4
③ 活動時の健康面や安全面	1	7.1
④ 費用面の負担	3	21.4
⑤ 保護者の負担(送迎など)	1	7.1
⑥ 活動内容	2	14.3
⑦ 施設設備面の管理	3	21.4
⑧ 活動場所の確保	8	57.1
⑨ 生徒の指導	1	7.1
⑩ その他	1	7.1

指導者の視点では、活動場所の確保が最も多く課題とされている。

(問3) 今後もモデル事業に参加したいですか。

回答項目	回答数	割合(%)
① そう思う	10	71.4
② ややそう思う	4	28.6
③ どちらでもない	0	0.0
④ あまりそう思わない	0	0.0
⑤ まったく思わない	0	0.0

今後の参加について肯定的な考えである。



## V 概要と考察

### 1 回答からわかった主なこと

#### (1) 【市スポーツ協会加盟競技団体】

- ①休日の部活動の受け入れに前向き又は検討したいとする回答が約半数あるが、難しいと考える団体が4割程度となっている。受け入れ可能な種目は中学校の部活動に存在しない競技種目も多く挙げられている。(キックボクシング、ボウリング、ゲートボール等)
- ②受け入れにかかる会費は、競技種目によって経費が異なるため、ばらつきがあるものと思われる。
- ③受け入れにあたっての心配な点として、「活動場所の確保」や「生徒や関係者のトラブル対応」が多く挙げられている。
- ④市に希望する支援として、「活動場所の優先的な利用」が最も多く、次いで「会費等の補助」が多くなっている。

#### (2) 【市内スポーツ少年団】

- ①スポーツ少年団の活動場所は、多くが小学校の体育館及びグラウンドを利用しており、休日の部活動の受け入れには、中学校の活用も今後の検討課題と言える。
- ②受け入れに前向き又は検討したいとする回答が約半数あるが、難しいと回答した団体も4割強ある状況となっている。受け入れが難しい理由は、「指導者の調整や確保」や「自分たちの活動が忙しい」などの回答が多くなっている。
- ③受け入れ可能な種目は、全体的に中学校の部活動に存在する競技種目となっている。(バレーボール、バスケットボール、野球など)
- ④中学生を指導する場合の心配な点として、「責任の所在」や「指導内容・指導方法」について多くの団体が不安を抱えている。
- ⑤市に希望する支援として、「活動場所の優先的な利用」や「会費等の補助」が多く挙げられている。

#### (3) 【令和5年度モデル事業参加者】

(生徒)

- ①参加して良かった点として、「専門的な指導」や「活動の充実」などが多く挙げられている。
- ②参加して課題だと感じたこととして、「保護者の負担(送迎など)」や「移動手段」が多く挙げられている。
- ③約75%が今後の参加に対して前向きな回答となっており、今後の継続参加に期待が持てる。

(保護者)

- ①参加して良かった点として、参加保護者でも「専門的な指導」や「活動の充実」などが多く挙げられている。
- ②参加して課題だと感じたこととして、参加保護者でも「保護者の負担(送迎など)」や「移動手段」が多く挙げられている。
- ③休日の部活動が地域クラブに移行・連携することについて、参加保護者の約6割が肯定的な考えを示している。
- ④約9割が今後の参加に対して前向きな回答となっており、今後の継続参加に期待が持てる。

(指導者)

- ①メリットとして、専門的な指導を受けることができることが多く挙げられている一方で、活動場所の確保についての課題が多く挙げられている。

## 2 考察

今回の調査は休日に部活動を行わなくなった場合、対象団体がその受け皿となることができるか、また、受け皿になる場合の課題等をつかむためのものであった。

競技団体については、受け入れに前向きな団体が半数を超えているが、その種目は市内の中学校に部活動として設置していない種目が多かった。中学生を指導する上での課題は、活動場所の確保や生徒や関係者のトラブルの対応が多く挙げられている。中学生が様々な種目に触れる機会を作るために競技団体と連携していくことが必要である。

スポーツ少年団については、団に3人以上の指導者がいる割合が8割を超え、ほとんどの団が休日のいずれかに活動していると回答している。また、受け入れに前向きな団体が半数を超えている。受け入れ可能な種目も、市内の中学校に設置されている種目が多く挙げられており、今後、休日の部活動の地域移行・地域連携の受け皿となる可能性がある団体として連携を密にしていきたい。一方で、受け入れが難しい理由は、指導者の調整や確保、自分たちの活動が忙しい等の回答が多くなっている。また、中学生を指導する場合の心配な点として、「責任の所在」や「指導内容・指導方法」について多くの団体が不安を抱えている。

モデル事業参加者については、生徒・保護者ともに、専門的な指導や活動の充実などが多く挙げられている。モデル事業指導者も、専門的な指導を受けられることができることをメリットとして多く挙げられている結果となった。

今後、休日の部活動の地域移行・地域連携を進めるため、今回の調査で明らかになった課題の検討を慎重に進めていく必要がある。また、中学生のニーズに合った活動を受け入れる団体の整備にもとりくんでいかなければならない。

今回の調査は、今後の本市の取り組みを考えるために有意義な取り組みであった。明らかになった課題を検討し今後の部活動の地域移行・地域連携の在り方を探る参考にした。